

森美術館

「建築の日本展:その遺伝子のもたらすもの」同時開催プログラムのご案内

会期: 2018年4月25日(水) - 9月17日(月・祝) 会場: 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション007: 見えない都市

企画: 椿 玲子(森美術館キュレーター)

出展作家: イ・ブル、ジャガンナート・パンダ、黒川紀章

「見えない都市」は、マルコ・ポーロがフビライ・ハンに、旅先で見聞した様々な驚くべき都市について語る、イタロ・カルヴィーノによる幻想小説のタイトルからの引用です。人間は常に理想の社会を思い描き、建築や都市はそれが形として現出したものだといえますが、同時にそれらは時の流れの中で廃墟化する可能性を持っています。さらに、ポスト・インターネット時代の現代においてはネットワーク状に生成し、目に見えるものを超越しているともいえるでしょう。本展ではイ・ブル、ジャガンナート・パンダ、黒川紀章の作品を通して、このような建築や都市について考察します。



ジャガンナート・パンダ
《叙事詩Ⅲ》
2010年
アクリル、布、接着剤、キャンバス
229×396 cm



MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン008: 近藤聡乃

企画: 荒木夏実(インディペンデント・キュレーター)

ニューヨークを拠点に活動する近藤聡乃(1980年生まれ)は、マンガ、アニメーション、ドローイング、油彩画、エッセイなど、多様な手法を用いて独特の表現世界を築いてきました。人と自然が融合し、自己と他者の境界が揺らぐ近藤の描写は、虚実が入り混じった夢のような印象を与えます。本展では、近藤の代表作であるアニメーション《電車かもしれない》、《てんとう虫のおとむらい》、《KiyaKiya》を紹介するとともに、新たな試みとして短編漫画をスライドショーの形式で発表します。



《電車かもしれない》
2001-02年
アニメーション 3分56秒
音楽: 知久寿焼
Courtesy: Mizuma Art Gallery



MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト025:

アピチャップン・ウィーラセタクン+久門剛史

企画: 徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

映画監督としても国際的に活躍するアーティスト、アピチャップン・ウィーラセタクン(1970年タイ・バンコク生まれ)と、近年活躍が目覚ましい久門剛史(1981年京都生まれ)のコラボレーションにより制作された、新作映像インスタレーション《シンクロシティ》を紹介します。2人のアーティストが互いに影響し合いながら、対話的なプロセスから生まれた実験的な本作は、鑑賞者の想像力を掻き立てる刺激的なものとなることでしょう。



コロンビアでのリサーチ写真、2017年
Courtesy: Kick the Machine Films

主催: 森美術館 開館時間: 10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料: 「建築の日本展」チケットで鑑賞可 一般 1,800円、学生(高校・大学生) 1,200円、

子供(4歳-中学生) 600円、シニア(65歳以上) 1,500円 *表示料金に消費税込

*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く) *スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

プレスリリース お問い合わせ

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 津原、^{たかぎ}都木、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル